

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 許 涼 會

論 文 題 目

Relationship between BMI and Postoperative Complications with
Free Flap in Anterolateral Craniofacial Reconstruction

(遊離皮弁を用いた前中頭蓋底再建におけるBMIと術後合併症の関係)

論文審査担当者

主 査

委員

名古屋大学教授

平 田 仁 


名古屋大学教授

委員

若 林 俊 彦 

名古屋大学教授

委員

小 寺 泰 弘 

名古屋大学教授

指導教授

亀 井 讓 

論文審査の結果の要旨

今回、前中頭蓋底切除および拡大上顎全摘術後に遊離腹直筋皮弁を用いて同時再建を行った 35 例における BMI (body mass index) と術後合併症との関係について調査を行った。症例を BMI が $20 \text{ (kg/ m}^2\text{)}$ 未満と $20 \text{ (kg/ m}^2\text{)}$ 以上の 2 群に分け、術後感染、髄液漏、皮弁部分壊死、皮弁全壊死、および内眼角部皮膚瘻孔の発生率について統計学的に比較検討を行った。再建部位における術後感染が 11 例 (31. 4%)、内眼角部における術後瘻孔が 4 例 (11. 4%) に生じ有意差を認めた。この結果、前中頭蓋底切除および拡大上顎全摘術後に対して遊離腹直筋皮弁による再建を行う際、BMI が低い症例では再建のために必要な組織が十分に採取できない可能性があり、補綴を利用するなど手術方法を工夫必要があることが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 前中頭蓋底切除および拡大上顎全摘術後の同時再建には肩甲骨皮弁皮弁や、肋骨付き広背筋皮弁など硬組織再建が可能な皮弁の選択も考えられるが、術中体位変換が不必要な腹直筋皮弁の方が手術時間の短縮という点で優れていると考えられる。
2. 内眼角部の術後炎症および瘻孔の発生予防のためには移植した組織を内眼角裏面の死腔に十分充填し、合併症を予防する必要があると考えられる。
3. 糖尿病、高血圧、および高脂血症を基礎疾患に持つ症例について術後合併症の発生率との関係を調査したが、本研究において有意な差は認められなかった。

以上の理由により、本研究は博士 (医学) の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙 2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	許涼會
試験担当者	主査	平田 仁	若林俊彦	小寺泰弘
	指導教授	亀井 讓		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 遊離腹直筋皮弁以外の皮弁の選択について 2. 内眼角における術後炎症の予防について 3. 基礎疾患と合併症発生との関係について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、形成外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				